ホルスタイン種における簡易的な採卵プログラムの確立

○三嶋渓太[1)]・塚田葉[1)]・望月香甫[2)]・白井雄介[3)]・田村洋次[2)]・菊島一人[4)]・神藤学[4)]・内田雄祐[1)]
[1)] 山梨県畜産酪農技術センター・[2)] 山梨県農政部畜産課・[3)] 山梨県東部家畜保健衛生所・[4)] 山梨県西部家畜保健衛生所

背景・目的

背景

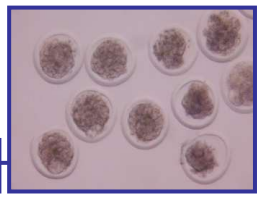
・子牛生産では受精卵移植が有効
・ホルスタイン種からの採卵には
卵胞刺激ホルモン（ＦＳＨ）の８回の投与が必要
⇨**牛の保定やホルモン接種など作業が煩雑、牛にストレス負荷**

投与風景

目的

簡易的な採卵プログラム確立を目的に、従来のＦＳＨ８回投与法に対し**投与回数を減らした場合**の採卵成績を比較した。

受精卵



方法・結果

方法①

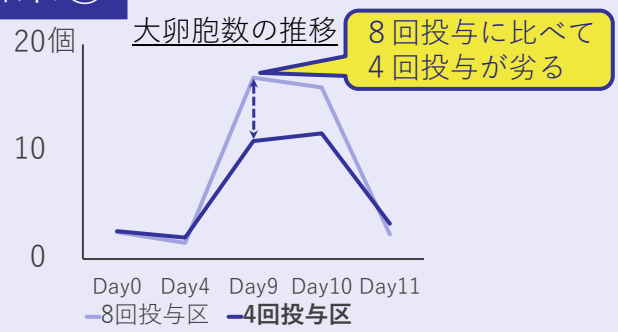
作業者の労力と牛のストレスを半減させるため従来の半分の**４回投与法を検討**

		Day4	Day5	Day6	Day7	Day8
8回投与区	AM	–	6	4	3	2
	PM	6	4	3	2	–
4回投与区	AM	–	–	–	–	–
	PM	１２	8	6	4	–

(AU※)

※：FSHの量を表す単位

結果①



・**４回投与では卵胞発育が不十分**

⇨投与方法を再検討

方法②

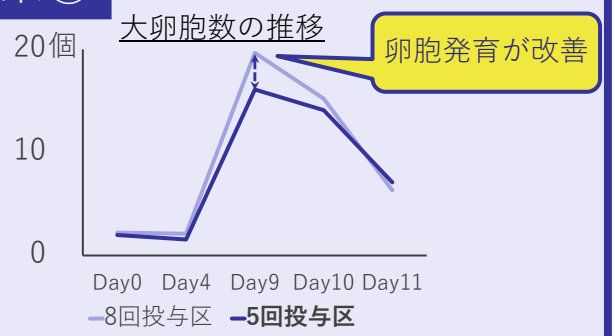
十分な卵胞発育を促すため、FSHの持続効果が期待できる皮下投与を取り入れた**５回投与法を検討**

		Day4	Day5	Day6	Day7	Day8
8回投与区	AM	–	6	4	3	2
	PM	6	4	3	2	–
5回投与区	AM	–	6	4＋10※	–	–
	PM	6	4	–	–	–

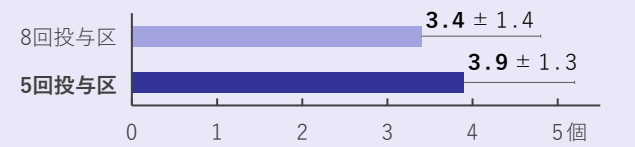
(AU)

※：皮下投与

結果②



移植可能な受精卵の数



ＦＳＨ投与を８回→５回に削減
⇨乳用牛の改良促進が期待

共同研究機関
栃木畜研、神奈川畜技、岐阜畜研、愛知畜セ、島根畜技、岡山畜研、福岡畜試、(独)家畜改良セ